

活用手引書



- 発行：佐賀県 平成24年3月
- 製作：佐賀県立男女共同参画センター
- 企画・協力：男女共同参画啓発用資材作成委員会

問い合わせ先：佐賀県立男女共同参画センター

〒840-0815 佐賀市天神3丁目2-11

TEL 0952-26-0011

FAX 0952-25-5591

E-mail danjo@avance.or.jp

紙芝居「なにがすき？」を読む前に

- ★この紙芝居は、女の子、男の子という周囲から期待された固定的な役割を生きるのではなく、子ども一人一人が持っている個性を大切に生きて欲しいという願いを持って作りました。
- ★幼児期の好き-嫌いは自分らしさを求める姿であり、好きなものや人を大切にしようとする社会性を育む源です。
この紙芝居は、「なにがすき？」と問いかける先生と「〇〇がすき」と答える子どもたちとの会話のやりとりを楽しむものです。この紙芝居を通して、子どもたちが自分らしくあることの心地よさ、自分と好きなものがちがう友だちのよさを自然に感じ取ってもらえたら嬉しいです。
- ★「いろんな〇〇があるね。なにがすき？」というシンプルな繰り返しのフレーズによって、年少児も「これ」と好きなものを指差しできるようにしています。
- ★身近な生活から、小学校生活、将来の仕事へと時系列でなにが好きかを考える構成にし、年長児まで幅広く使えるように工夫しました。
- ★紙芝居としてだけでなく、一部を抜き出して絵カードとしても使うこともできます。



① 「なにがすき？」（表紙）



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

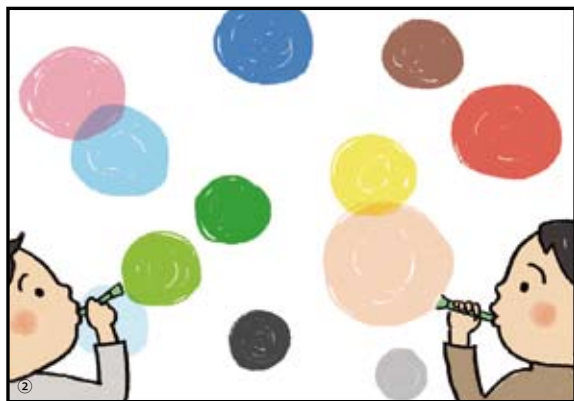
自分の好きなものはなにかな？と考える、男女どちらにでも見えるひとりの子どもとして描いています。表紙の子どもは、先生の前で紙芝居を見つめている子ども一人一人の分身です。「髪が長いから、リボンをしているから女の子、髪が短いから、眉毛が太いから男の子」というような思い込みではなく、いろいろな外見の子どもがいることを伝えられたらいいなと願っています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

「この子は女の子？男の子？」と子どもからたずねてくることがあるかもしれません。「そうね、どっちだろうね～」と子どもたちに返し、もしも「髪が短いから男の子」と答えた子どもがいたら、「短い髪の女の子も、長い髪の男の子もいるからね。」と見た目だけで決められないことに気づかせられるといいですね。

② 「いろんな色があるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

色とりどりのシャボン玉を描いています。「赤色」「青色」「黄色」と答えやすいように、子どもたちが普段使っている12色のクレヨンに近い色にしています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

「これがすき」と指を差してくる子どもには、「水色だよ」と色名を伝えるだけでなく、たとえば「○さんは、水色がすきなね。スモックも同じ水色だね。水色が似合っているね。」と会話を膨らませることも楽しいでしょう。12色以外の色が好きな場合もありますから、「どれもすきな色はない」と答えたときも、「○さんはどんな色がすきなのか？」と聞いてみてはいかがでしょうか。

③ 「いろんな服があるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

季節を考慮しながら、いくつかの色、模様、形の洋服を描いています。男の子の子ども一人一人に好きな洋服の好みがあっていいことを伝えられたらいいなと願っています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

限られたなかでの選択ですから、「どれも好きな服はない」と答えることも予想されます。「○さんはどんな服がすき？」とたずねて、やりとりを楽しむ展開もあるでしょう。

もし、男の子から、「スカートがすき」という声があったときは、「そう、○さんは、スカートがすきなよね。」等、その気持ちを一旦受け入れてほしいところです。お母さんがはいているスカートが好きという意味であったり、一度スカートををはいてみたいという自分と異なる性への好奇心だったり、“好き”の背景は、いろいろです。「男の子がスカートををはくなんておかしいよ」と言うよりも、どうして好きなのか、子どもの気持ちを引き出してみてはいかががでしょうか。

④ 「いろんな遊びがあるよ。なにがすき？」『室内での遊び』



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

主に室内で遊ぶおもちゃを描いています。たとえば、怪獣ごっこの好きな女の子、おままごとの好きな男の子がいてもいい、遊びたいおもちゃで遊ぶのは楽しいことだと伝えられたらいいですね。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

外遊びの好きな子どもにとっては、室内で遊びたいものがないかもしれません。外遊びは、次のページに描かれています。次のページと2枚並べて、なにが好きかをたずねてみてみましょう。

⑤ 「いろんな遊びがあるよ。なにがすき？」『戸外での遊び』



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

ここでは、木登り、砂遊び、サッカーを男女で仲良く楽しんでいる姿を描いています。これは女の子の遊び、これは男の子の遊びと区別せず、やりたい遊びをしていいよと伝えたいですね。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

例示された遊びに限定せず、保育所や幼稚園で流行っている遊びについて自由に話題をひろげてもいいでしょう。

⑥ 「いろんなランドセルがあるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

小学生(お兄ちゃん、お姉ちゃん)になりたいと期待を膨らます子どもたちに、好きなランドセルはどれなのか、色やデザインの異なる6つのタイプから選んでもらう場面です。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

年長児には「どうしてそのランドセルがすきと思ったの？」とたずねてみると、自分なりの選択基準を話してくれるかもしれません。「私のランドセルは、○色だよ」と購入したランドセルの話をしながら、入学への期待を膨らませることもあるでしょう。

⑦ 「いろいろなことができるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

いくつかのスポーツや習い事を描いています。今すでに習っているものもあれば、習ってみたいなあと希望するものもあるでしょう。どの習い事も、男女の区別なく、一人一人がしたいことにチャレンジしていいんだよと伝えたいものです。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

道具と習い事とを結び付けることが難しい子どもは、「これはなに？」とたずねるかもしれません。先生から「これはなにに使うものでしょう？」とクイズにしてみる方法もありますね。

⑧ 「いろいろなお仕事があるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

「電車の運転手は男性」「お花屋さんは女性」という固定化されたイメージを強めないようにと工夫しています。また、男女が世代を超え、ともに協力して働く姿を描いています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

女性が運転手、男性がお花屋さんという見慣れない絵に、違和感を持つ子どもがいるかもしれません。もし、「おかしい」と言った場合は、「そうね、男の運転手さんもいるよね。男の人も女の人も自分になりたい仕事についたら嬉しいよね。」等、子どもの気持ちを否定せずに答えたいものですね。

⑨ 「いろいろなお仕事があるよ。なにがすき？」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

前ページの続きとして、サッカー選手(女性同士)、医師と看護師(女性と男性)、パティシエ(男性同士)というさまざまな組み合わせで描いています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

なりたい仕事の例が限られています。前のページと2枚並べて見せながら、なにが好きかたずねたり、それ以外にどんな仕事につきたいか、子どもたちにたずねたりしてみてもいいでしょう。

⑩ 「なにがすきでもいいんだよ。」



《絵にこめた願い(工夫したこと)》

先生の問いかけによって、なにが好きかをたくさん出し合った子どもたちに、最後に伝えたいメッセージです。背景はすがすがしい青空。自分らしさを認められた子どもたちの笑顔を描いています。描かれた子どもたちの輪の中に紙芝居を見つめている子どもたち自身がいるような気持ちになってくれたら嬉しいです。

この紙芝居は固定的な価値観を押しつけるものではありませんから、活用のヒントに縛られず、先生の創意工夫を期待しています。人権感覚を磨きながら、子どもたちの健やかな育ちを支えてくださることを願っています。

《子どもたちと紙芝居をいっそう楽しむために(活用のヒント)》

★こんな時どうしたら？

「なにがすきでもいいんだよ」という短いフレーズで余韻を持って終わるのもいいですし、先生の願いを最後に伝えられてもいいと思います。